

特別の教科 道徳

Morality

「特別の教科 道徳」(道徳科)は、「道徳的諸価値について理解する。自己を見つめる。物事を(中学校：広い視野から)多面的・多角的に考える。自己の生き方(中学校：人間としての生き方)について考えを深める。」ことを通して、道徳性(道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度)を育てる教科です。

そのためには、児童生徒が常に自己を見つめながら、他者ととともに多様な視点から話し合うことを通して自己の(中学校：人間としての)よりよい生き方を考えていく、「考え、議論する道徳」の授業を実践していくことが大切です。

【道徳科のページで使用されている用語解説】

特別の教科	主たる教材として教科書を使用するが、他の教科とは異なり、数値による評価は行わないことや児童生徒の実態を把握しやすい学級担任を中心に授業を行う。なお、教育活動全体を通じて行う道徳教育の「要」としての役割を果たす、他の教科にはない役割もある。
道徳的価値	よりよく生きるために必要とされるもので、人間としての在り方や生き方の礎となるもの。
道徳的価値の理解	道徳的価値のよさや素晴らしさ(価値理解)だけでなく、道徳的価値の実現の難しさ(人間理解)や道徳的価値の感じ方、考え方の多様さ(他者理解)などについても理解を深めること。
道徳性(道徳性の諸様相)	道徳性の諸様相と呼ばれる、「道徳的判断力」「道徳的心情」「道徳的実践意欲と態度」といった、よりよく生きるための基盤となる内面的な資質・能力のこと。道徳科では道徳性は評価しない(できない)。諸様相には、特に序列や段階はなく、互いに補い合って道徳性全体を構成する。
内容項目	目標を達成するために指導すべき学習内容のこと。A～Dの4つの視点で分類され、その内容を端的に表す言葉(キーワード)が付されている。
主題(名)	どのような道徳的価値をねらいとし、どのように教材を活用する授業であるか、その内容を概観できるように端的に表したもの。(学習するテーマ) 〈例〉「自由と自分勝手」「あきらめない心」など
多面的・多角的に考える	多面的に考えるとは、一つの道徳的価値について違う側面から見ること。多角的に考えるとは、中心的な道徳的価値から関連する道徳的価値に広がりをもたせること。
道徳科におけるめあてと振り返り	道徳科におけるめあては、どのようなことを自分との関わりで深めていくか、本時で扱う道徳的価値へと方向付けるもの。 道徳科における振り返りは、本時で深めた道徳的価値の理解に基づく自己の振り返りであり、よりよい生き方への思いや願いを深めていくためのもの。

特別の教科 道徳

1 授業づくりについて

道徳科では、**明確な指導観を持って授業を構想**することが大切です。「はじめよう！道徳科②授業づくりの流れ」参照。
http://www.nc.gunma-boe.gsn.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=1374

【指導のポイント】

【問題意識をもつ】

○道徳的価値と自分の経験のずれ、教材の主人公の行為と自分の考えのずれなどを把握させる。

【めあての設定】

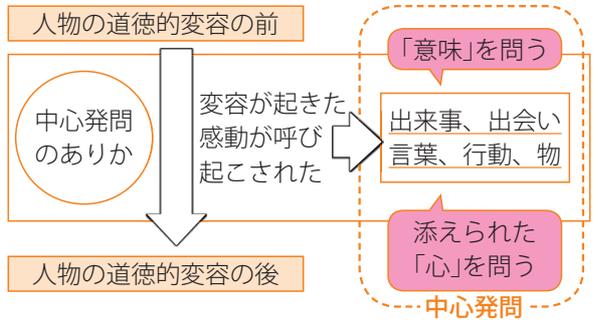
○資料を読み考える必要性が増すように、内容項目に関わって掘り下げて考えたり、一言では返答できなかったりするものが増える。
 <例>

- ◆本当の友情とはどういうことだろう？
- ◆親切にすることが大切なのはなぜだろう？

【中心発問について】

○中心発問に求めること
 本時のねらいに迫るために多様な考えを引き出すこと。

○中心発問は教材の仕掛けを生かし、次のように考える。
 <教材>



行為や言葉の裏にある「意味」や「心」を問う。

- <例>
- ◆「Aとの出会いは彼に何を気付かせたのだろう。」
 - ◆「なぜ、〇〇は涙を流したのだろう。」

【補助発問について】

○児童生徒の本音を引き出し、考えを深める。

- <例>
- ◆常識や当たり前と考えていることに対する問い直し
「本当に？」「それでいいのかな？」
 - ◆きれいごとで終わりそうな発言に対するゆさぶり
「難しくないの？」「できるかな？」

※展開の3や4においては、多様な考えを比較できるように、板書等で考えを可視化する。

基本的な流れ

導入

1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。

- 本時で扱う道徳的価値に関わる資料（アンケート結果、視聴覚教材等）を提示したり、話題（経験も含む）にしたりして気付きを共有させる。
- 児童生徒の問題意識を基に、学習のめあてを設定する。

【めあて】

展開

2 教科書の教材文の範読を聞く。

- 教師は、実態に応じて場面絵を提示し読み進める。

3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。

- 人間関係を確認したり、状況を把握したりするための基本発問をする。
- 多面的・多角的に考えることのできる中心発問をする。
- 中心発問に対する児童生徒の考えに対し補助発問をする。



価値理解

人間理解

他者理解

交流

価値理解

人間理解

他者理解

交流

※問題場面を役割演技で再現するなどの体験的な活動を設定することも考えられる。

4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。

- 学習のめあてに戻り、改めて気付いたことや考えたことを問いかける。
- 児童生徒に考えたことを発表するよう促す。
- 発表された様々な考えを受容する。

終末

5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

- 本時の学習を振り返り、よりよい自己の考えや生き方への思いや願いを深めさせる。

【振り返り】

2 実践例

(○発問 ◎中心発問 ◇補助発問)

小学校 第5学年 主題名：相手のための親切

内容項目：B 親切、思いやり

教材名：『やさしいユウちゃん』

【ねらい】

ユウコがハルカと同じ委員会に入るかやめるかを悩んだ場面で、ユウコの心の葛藤を考えさせることを通して、相手の立場を考えて親切にしようとするための判断力を育てる。

1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。

● 親切に関するアンケート結果を提示する。

○ 親切とはどういうことですか。また、親切にされるとどのような気持ちになりますか。

【問題意識】

自分にとって「親切」でも、相手は「親切」と感じられないこともあるのだな。

【めあて】

親切とはどういうことだろう。

2 教科書の教材文の範読を聞く。

3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。

○ 「ユウちゃんといっしょになれてよかった。」と言われたユウコは、どのような気持ちだったでしょう。

◎ 本当にそれでいいのかなと、しばらく考え込んだとき、ユウコはどのようなことを考えていたでしょう。

ハルカ一人で本当に大丈夫かな。

ハルカには、本当にやりたいと思ったことをやらせてあげたいな。

私がいなくてもいろいろできるように、一人で頑張った方がいいよ。



◇ 「二人一緒にやめる」と「ユウコだけやめる」、二人にとってどちらが難しいかな。

ユウコだけやめること。でも、ハルカが自分で決めたから、応援してあげたい。

本当にハルカのためになるのは、一人でも飼育委員に入ることだと思う。

4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについても一度考える。

○ 親切とは、どういうことだと思いますか。

相手のことを、先まで考えてあげることかな。

相手のことを思えば、厳しさも必要だと思う。

◇ 厳しくしたら、困る友達もいるみたいだよ。

相手のことを考えて、優しさと厳しさを使い分けられたい。

5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

○ 親切について、今までの自分はどうだったか、これからどのような気持ちを大切にしていこうか考えよう。

【振り返り】の一例

・ 相手を助ければ親切かと考えていましたが、相手の立場になって考えることが必要だと思いました。相手にとって何が本当の親切か、考えてから声をかけていきたいです。

中学校 第3学年 主題名：コミュニケーションの原点

内容項目：B 相互理解、寛容

教材名：『心にしみこむ言葉の力』

【ねらい】

池上さんの心情や根底にある思いを考えることを通して、よりよい人間関係づくりに必要な寛容の心をもち謙虚に他に学び、自らを高めていこうとする心情を育てる。

1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。

● コミュニケーションに関する生徒アンケートをモニターに提示する。

○ 自分の考えや気持ちが相手にうまく伝わらなかった経験はないだろうか。

【問題意識】

自分の考えや気持ちがうまく伝わらないのはどうしてだろう。

【めあて】

よりよい人間関係づくりに大切なことは何だろう。

2 教科書の教材文の範読を聞く。

3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。

○ 「自分の気持ちを伝える」時に、池上さんが気を付けていることはどのようなことだろう。

◎ どのような気持ちで、池上さんはコミュニケーションの原点は「相手の話をよく聞くことだ。」と言ったのでしょうか。



自分の知識だけだと、相手がどんなことを知っていて、どこまで理解できるかが分からない。

相手のことを大切にすることが大切だから。



◇ 相手のことが理解できるとどのようにになりますか。



相手の状況に応じて、言葉をかみ砕いたり、説明したりすることができると思う。

そうすれば自分のこともわかってもらえるね。



4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについても一度考える。

○ よりよい人間関係を築くために、どのようなことが大切だと思いますか。

相手のことを理解する気持ちかな。

自分の一方的な考えを相手に押し付けない気持ちだと思う。

理解って、どうやってしたらいいの？

伝えるべきことはきちんと言うことも必要だと思う。



5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

○ よりよい人間関係づくりに関して、今までの自分を振り返り、ワークシートに整理しよう。

【振り返り】の一例

・ お互いを尊重し合う気持ちをもつことが人間関係をよりよくすることにつながると思います。自分の考えをきちんと伝えた上で、相手のことを考えた友達関係を築いていきたいと思いました。

2 実践例

(○発問 ◎中心発問 ◇補助発問)

小学校 第5学年 主題名：集団での役割
 内容項目：C よりよい学校生活、集団生活の充実
 教材名：『たのむよ、班長』

【ねらい】
 班活動で直面する具体的場面を取り上げ、自分ならどうするかを考え、全体で話し合うことを通して、集団における自分の役割を自覚して責任を果たそうとする態度を育てる。

- 1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。
 ● 班活動に関するアンケート結果を提示する。
 ○ 班活動の時に気を付けていることはありますか。

【問題意識】
 班活動では協力が大事だとわかっていても、できないこともあるのだな。

【めあて】
 協力するために大切なことは何だろう。

- 2 教科書の教材文の範読を聞く。
 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。
 ○ 大和たちのグループは協力ができているのだろうか。協力できない原因は何だろう。

チームワークが足りないから。
 意見がバラバラで、みんなが自分勝手だから。

- ◎ それぞれが、どのようにしたら「協力」できるだろうか。
 (大和の立場、進の立場、優花の立場)

みんなでできることを確かめて行動する。
 時間だけでなく、問題も解決する。
 じっくり解決したいけど、時間を決める。

- ◇ みんなの意見が大きく違っていたらどうする？
 いろいろな考えがあるけど、自分勝手にするとけんかになる。
 班の人の気持ちを考えて、譲り合ったら協力できるかなと思う。

- 4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてももう一度考える。
 ○ 協力するために大切なことは何だろう。

人に任せきりにしない。
 みんなの意見を聞いて、話し合う。
 それぞれができることを考えて行動する。

- 5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。
 ○ これまでの自分の協力はどうだったでしょう。これからはどのようにしていきたいですか。

【振り返り】の一例
 ・ 遠足のときお弁当を食べる場所でけんかになったけれど、話し合ったらみんなで決められた。これからは自分勝手ではなく協力していきたい。

中学校 第1学年 主題名：「きまり」の意義
 内容項目：C 遵法精神、公德心
 教材名：『人に迷惑をかけなければいいのか？』

【ねらい】
 「僕」が「わかった」ことは何かを考えるとともに、「僕」の考えに対する意見を比較・検討することを通して、きまりの意義を理解し、進んで守ろうとするための判断力を育てる。

- 1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。
 ● 駐車場の写真を提示する。
 ○ 駐車場の周りにコーンがあります。何のためにあるのでしょうか。



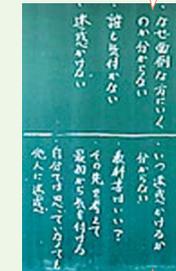
【問題意識】
 人に迷惑がかからないところでは、きまりを守っていないことがあるな。

【めあて】
 人に迷惑がかからなくても、きまりを守るのはなぜか。

- 2 教科書の教材文の範読を聞く。
 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。

- どのようなきまりが出てきましたか。「僕」の言い分は何だろう。
 ◎ 「僕」は「人に迷惑をかけなければいい」と考えていました。このことについて、守った場合と守らなかった場合を考えよう。

守ることのメリットやデメリットは？
 ルールは守らなければ、いつ迷惑をかけるか分からないよ。
 守らなくても自分の責任なのだから、よいのではないかな。



- ◇ 「僕」が学んだ「きまり」とは、どのようなことだろうか。守らないこと理由は？

自分のことだけを考えると、いずれ周りの人に迷惑がかかる可能性があること。

- 4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてももう一度考える。
 ○ 人に迷惑がかからなくても、きまりを守るのはなぜですか。

きまりは人と人とのルールで、人に迷惑をかけないためのものでもあるから。
 きまりを守らないと社会が成り立たなくなってしまうから。

- 5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。
 ○ これまでの自分はどうだったでしょう。これからはどのようにしていきたいですか。

【振り返り】の一例
 ・ きまりにも、意味があることが分かった。これからは、きまりの意味を考えて守れるようにしたい。
 ・ きまりはただ守ればいいのではなく、その意味をよく考えたいと思った。

2 実践例

(○発問 ◎中心発問 ◇補助発問)

小学校 第3学年 主題名：家族できょうりよくし合うこと
 内容項目：C 家族愛、家庭生活の充実
 教材名：『お母さんのせいきゅう書』

【ねらい】
 役割演技により、母親からの請求書を見ただいすけの気持ちを体験的な活動で考えることを通して、家族の一員として進んで楽しい家庭を作ろうとする態度を育てる。

1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。
 ○家族のためにしていることには、どのようなことがありますか。また、その理由も考えよう。

【問題意識】
 自分から進んで家族のためにしていることは、あまりないな。

【めあて】
 「家族」で大切なことは何だろう。

2 教科書の教材文の範読を聞く。
 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。
 ○400円を受け取っただいすけは、どのような気持ちになったでしょう。

「やった。本当にもらえるとは思わなかった。」
 また、請求書を書こう。

◎お母さんからの請求書を読んだ時のだいすけの気持ちになって、考えてみましょう。

ぼくは、「お母さんごめんなさい。返します。」かな。
 私は、「もらっちゃいけない。いろいろしてくれているのに」かな。

●母親とだいすけになって、役割演技をする。
 ◇なぜ、お母さんは請求書を書かないのでしょうか。

「お母さんは、家族みんなのことを考えて、いろいろやってくれているから。」
 ○だいすけのお母さんへの気持ちは、どのように変わりましたか。

「お母さん自分のことを考えてくれて、ありがとう。」
 これからは家族のことを考えて、お手伝いしよう。

4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。

○「家族」で大切なことは、何だろう。

「お金とかではなく、助け合える家族がよいと思う。」
 お互いを大切にして、みんなが家族のためにできることをする。

5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

○これから家族の一員として、どのような気持ちで生活していきますか。

【振り返り】の一例
 ・家族に優しくして、協力できるようにしたい。
 ・家族にたくさんのをやってもらっているから、家族のためにお手伝いできるようにしたい。

中学校 第3学年 主題名：自己を見つめる
 内容項目：A 向上心、個性の伸長
 教材名：『ぼくにもこんな「よいところ」がある』

【ねらい】
 友達への見方の変化を「ぼく」の姿から考え、長所へと目を向ける体験的な活動を通して、自分の個性を更に伸ばしていこうとする心情を育てる。

1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。
 ●「自分の長所と短所」のアンケート結果を提示する。
 ○アンケートの結果から、どのようなことに気付きますか。

【問題意識】
 長所よりも短所の方が多いな。なぜ、短所の方が多いのだろう。

【めあて】
 自分の個性を更に伸ばすには、何が必要だろう。

2 教科書の教材文の範読を聞く。
 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。

○「ぼく」の長所と短所は何ですか。
 ◎「ぼく」は、「これまでとは違って落ち着いた気持ちでいることができる」と感じたのはなぜだろうか。

「友達が、自分の「よいところ」を書いてくれて、自分に自信がもてたから。」
 ◇なぜ自信がもてたのでしょうか。

自分が友達から認められているということに気付いたから。

●体験的な活動「短所も見方を変えれば長所になる」を行う。
 ◇「ぼく」は、どのように気持ちが変わったのでしょうか。

「怒りっぽい」は見方を変えると、「情熱的」だよな。
 そんな風に言ってもらえて嬉しい。ありがとう。

「友達の「よいところ」を見るようになった。」
 大きな心で、前向きに考えるようになったと思う。

4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。

○自分の個性をさらに伸ばすためには、どのようにしたらよいでしょうか。

「自分が短所だと思っている中にも、よいところを見つける。」
 相手のよいところを見るようにし、自分のよいところもさらに伸ばしていく。

5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

○これからはどのように生活していきたいですか。

【振り返り】の一例
 ・短所の見方を変えていきたい。
 ・短所も個性として前向きに考えたい。
 ・長所を更に伸ばすために、積極的に行動したい。

特別の教科

特別の教科 道徳

3 学習過程と教科書との関連

道徳科は、2学年をまとめり（小学校）として、内容項目との関係が明示されて配列されています。教科書では、一年間で学習すべき内容が網羅されています。主たる教材として、原則教科書を使用します。



	活用例について
年度始	・学習を始める前に、学び方や目次を使って、道徳科授業の特色や「考え、議論する道徳」の授業について説明するなど、オリエンテーションを行うことができる。
導入	・主題（名）をおさえた上で、この教材で何を考えるのかが明示されているものが多いため、導入の発問として活用することができる。 ・問題意識をもたせるために、挿絵の図、写真、イラストなどを効果的に活用することができる。
展開	・内容把握のために、挿絵などを活用して登場人物を紹介することができる。また、友達と協働したり対話したりする時間を確保することもできる。 ・簡単な考えをまとめるために、吹き出しなどを活用することができる。 ・本時で考えさせたい中心発問が示されている場合は、活用することができる。 ・教材文の次に発問例がある場合は、児童生徒の実態に応じて活用することができる。
終末	・自己評価などを活用して、学習した内容について振り返る活動を行うことができる。
学期末 年度末	・道徳科で学んだことを、「家族からの意見」などを活用し、家庭や保護者に向けて伝える活動ができる。 ・「一年間のまとめ」などを活用し、自己の成長について振り返ることができる。

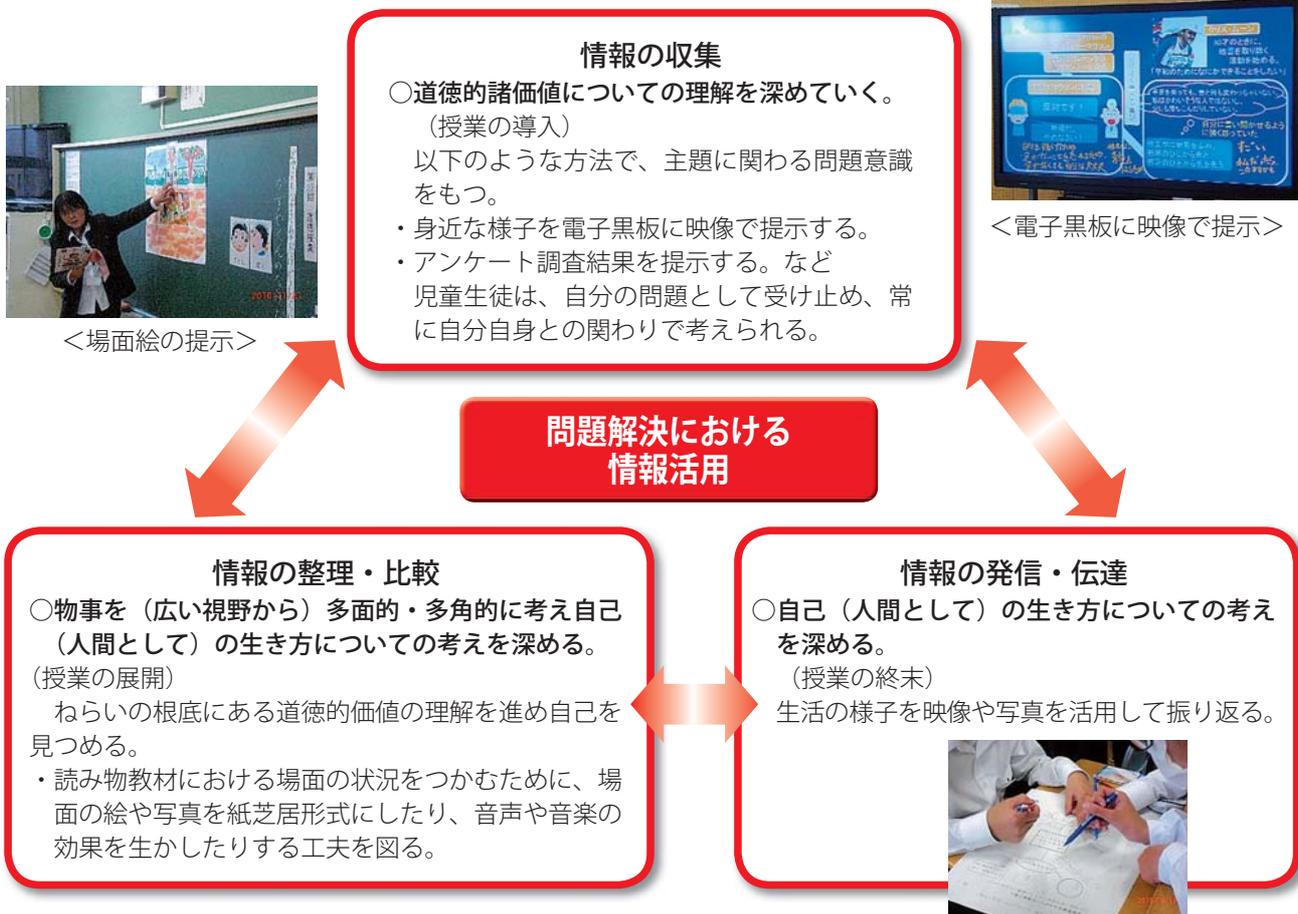
4 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫【例】

困難さ	指導の工夫
指導する上で 相手の気持ちを想像することが苦手で、字義通りの解釈をしてしまうことがある。	他者の心情を理解するために役割を交代して動作化、劇化する。
学習を進める上でのルールを理解できない場合がある。	ルールを明文化して示す。 例) 授業でのルールを文字化して示す。 ・意見を言うときは、手を挙げる。 ・友達の意見を悪く言うことはしない。 ※日頃から、意見が言いやすい温かな雰囲気 of 学級づくりを心がけましょう。
評価の際 多面的・多角的な見方へ発展させたり、道徳的価値を自分のこととして捉えたりすることが難しい。	相手の気持ちを想像することが苦手であることや、望ましいとわかかっていてもそのとおりにできないことがあるなど、一人一人の学習上の困難さの状況を踏まえる。
(前述のような配慮を伴った指導を行った結果として) 相手の意見を取り入れつつ自分の考えを深めることが難しい。	児童生徒、個人がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます「個人内評価」を十分に意識する。



5 情報活用能力の育成

道徳科の学習における情報とは…学習で扱う道徳的価値についての考え方



情報モラル・セキュリティ

学習活動を支援する手段の一つとしてICT機器を効果的に活用する。
ポイント

- 内容項目との関連を踏まえ、情報モラルに関する指導を充実させる。
- 道徳科は道徳的価値の理解を基に自己を見つめる時間です。その特質を踏まえた指導を行うことが大切。
- ※単に危機回避の方法やその際の行動の具体的な練習を行うことなどに主眼を置くのではないことに留意する。

〈例〉親切、思いやり／礼儀

相手の顔が見えないメールと顔を合わせた会話との違いを理解し、メールなどが相手に与える影響について考えるなど、インターネットなどに起因する心のすれ違いなどを題材とした授業。

〈例〉規則の尊重

インターネット上の法やきまりを守れずに引き起こされた出来事などを題材とした授業。

基本的な操作 〈例〉

- コンピュータによる疑似体験を取り入れた学習
⇒メールの送受信
- 学習後に、教材の内容をさらに調べ、広げる
⇒情報通信ネットワークを使ったインターネットの閲覧

問題の根底にある他者への共感や思いやり、法やきまりのもつ意味などについて、児童生徒が考えを深めることができるようにすることが重要。

特別の教科 道徳

6 地域の人材や物的資源の活用

道徳科の授業では、積極的な情報発信による「社会に開かれた教育課程」の実現を目指します。そのため、家庭や地域と連携を図ることが大切です。目指す児童生徒像や学校の実態に応じた重点内容項目を踏まえて、家庭や地域社会との連携を推進していきます。

具体的には、アンケートや手紙の協力を得たり、授業への出席を依頼し、児童生徒との対話や班別協議に加わってもらったりします。



内容項目視点	活用が考えられる地域の人的な資源	活用が考えられる地域の物的な資源
A 主として自分自身に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者などの家族 ・地域における著名人 	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話会社等（情報モラル）
B 主として人との関わりに関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者などの家族 ・地域における著名人 ・ボランティア経験者 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉施設 ・ボランティア団体 ・NPO法人
C 主として集団や社会との関わりに関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者などの家族 ・地域における著名人 ・ボランティア経験者 ・特技や専門知識がある方 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に受け継がれている文化や伝統芸能 ・博物館、資料館 ・ボランティア団体 ・NPO法人
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 ・助産師会 ・地域の先人 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院 ・いのちの大切さ出前講座：県助産師会 ・動物ふれあい推進事業：県獣医師会 ・博物館、資料館

地域教材の開発や活用

〈例〉郷土資料集「ぐんまの道徳」の活用

「ぐんまの道徳」は、群馬県の偉人や自然、伝統文化等を教材として小学校及び中学校の各学年段階ごとに作成された読み物資料である。

郷土の伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国や郷土を愛する態度を育成することが大切です。

道徳郷土資料集『ぐんまの道徳』を年間指導計画に位置付け活用

<http://www.cms.gsn.ed.jp/nc/GTaK/htdocs/>



「ぐんまの道徳」に入っているお話

中学校

- ① 多胡碑の保存に尽くす～横取素彦
- ② 伊勢崎銘仙とともに～下橋弥一郎
- ③ 近代日本の発展のために～小栗上野介忠順
- ④ 天明の大噴火～猪俣出し
- ⑤ 久米民之助の夢～市民の魂いよ田公園誕生秘話
- ⑥ 新しい日本文学をめざして～中山花袋

小学校5・6年

- ① 農業の発展のために～船津伝次平
- ② 自責の杖～新黒妻
- ③ また会おうね～尾海の自然をみつめて
- ④ 飛行機王～中島知久平

小学校3・4年

- ① 上原田の歌舞伎舞台～かみみはらだ
- ② りっぱなまゆをつくりたい～童謡に生をかけた高山長五郎
- ③ 世界遺産の富岡製糸場～いばら
- ④ 字を書きたい～星野喜弘

小学校1・2年

- ① うみ～林りゅうはといの上たけし
- ② えんぎだるま
- ③ ゆばたけのおゆ
- ④ やぎぶしのれんじゅう